

みんなの相談室

～悩みを共有し、ともに生きる社会をつくろう～

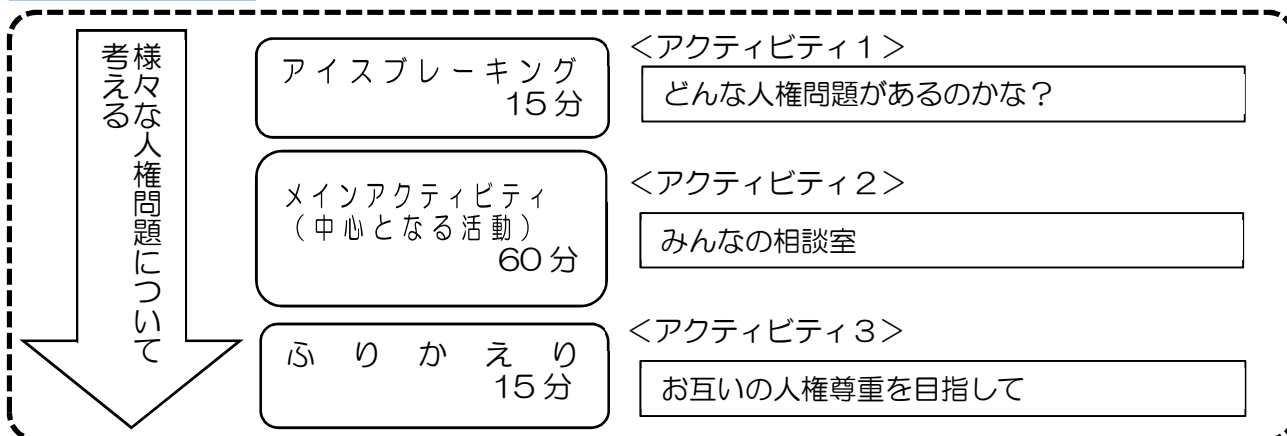
様々な人権問題

ねらい

相談者や相談を受ける立場になり、悩みを打ち明けたり、その悩みに対しての自分の考えを发表或しする活動をとおして、様々な人権問題を自分自身の身近な問題としてとらえ、人権問題への認識を深めます。

時間	90分	人数	1グループ4～6人（3グループ以上が望ましい）
準備	資料①・②・③・④ ワークシート 封筒 筆記用具		

学習の流れ



<アクティビティ1> どんな人権問題があるのかな？

活動のねらい

現在の日本には、今なお不当な差別が存在し、解決を目指す様々な人権問題があることを知ります。

実施の際のポイント

最初に、ファシリテーターが最近のニュースなどから人権問題に関する話題を例として取り上げ、人権問題とはどのようなものかをイメージしやすいようにします。

ここでは、短い言葉で箇条書きにするように伝えます。

参加者には、具体的にどのようなことが人権問題だと感じているのかを補足しながら意見交換をするように促します。

活動の進め方

〈準備〉ワークシート 資料①

- 1 4～6人のグループをつくり、簡単に自己紹介をします。（所属、名前、最近うれしかった出来事等）
- 2 現在の日本には、どのような人権問題があるかを考え、各自でワークシートに記入します。
- 3 ワークシートをもとにグループで意見を交換します。
- 4 資料①「様々な人権問題」を受け取り、現在の日本には解決をしなければならない様々な人権問題があることを知ります。

<アクティビティ2> みんなの相談室

活動のねらい

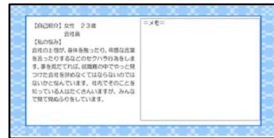
様々な人権問題について、相談者や相談を受ける立場になって考える活動をとおして、人権を自分自身の身近なこととしてとらえられるようにします。

実施の際のポイント

活動の進め方

〈準備〉 悩み事カード（資料②・③の悩み事カード作成の手順・留意点を参照して作成／封筒にグループの人数分を用意）

- 1 各グループに、悩み事カードが人数分入った封筒を配ります。
- 2 各自、封筒の中のカードを1枚ずつ引きます。
- 3 一人につき5～10分間、悩み事カードに書かれている悩みをグループで相談し、グループのメンバーはその問題について自分でどのように考えるか意見を出し合います。
- 3 一人目の相談者が終わったら、以下、最後の人まで進めます。メンバーからの意見はカードのメモ欄に相談者がメモをします。
- 4 全員が終わったら、グループを解体し、同じ悩みを抱えた者同士で新しいグループをつくります。
- 5 新しいグループでは、それぞれがもとのグループで出されていた意見を発表し、それらを基に実際に自分たちにできそうなことを話し合います。
- 6 5のグループでそれぞれどのような話し合いが行われたか、全体で発表します。
- 7 最初のグループに戻り、アクティビティをとおして考えたこと、気付いたことを中心に振り返ります。



グループのメンバーには、相談者の気持ちに寄り添いながら問題を考えるように助言します。

相談者には、聴く姿勢を大切にし、メモはごく簡単にすればよいことを伝えます。

時間の経過を知らせます。時間がきたら、途中であっても話し合いを終わりにします。

悩みを抱えている本人だけでなく、周りの人にもできることはないかということも併せて考えるように助言します。

時間があれば、グループで出た意見を全体で発表し、共有するようにします。

<アクティビティ3> お互いの人権尊重を目指して

活動のねらい

人権作文を読み、相手の思いを尊重することの大切さについて考えます。

実施の際のポイント

活動の進め方

〈準備〉 資料④ ワークシート

- 1 資料④の人権作文「相手の思いを大切に」を読み、感想をグループで話し合います。
- 2 ワークシート（ふりかえり）を用いながら、今日の活動を振り返ります。

普段から相手の立場に立って、その人の考え、気持ちを想像し、共感的に理解する人権感覚を身に付けることが大切であることに気付けるようにします。

今日の活動で気付いたことや感じたことを基に、自分にできそうなこと、心掛けたいことなどを考えるように促します。

様々な人権問題

私たちが生きる現代社会には、様々な人権問題が存在しています。これらの問題を解決し、すべての人の人権が尊重された社会を実現するための第一歩は、私たち一人一人が正しく理解することです。

高校生の皆さんには、様々な人権問題を学習することで、人権を尊重する意識を高め、学校、家庭、そして地域社会において、すべての人の人権が尊重された社会づくりの担い手になって欲しいと思います。

女性

性差により女性が不利益を受ける問題があります。女性に対するあらゆる暴力(DV^{*1}、セクハラ^{*2}、性犯罪、ストーカー行為等)が根絶されること、就職・昇進による性差がなく、女性個人の意思であらゆる分野に参画できること、女性の育児・介護負担などに性差がないことなどの社会実現が求められています。

子ども

日本は1994年「子どもの権利条約^{*3}」を批准し、子どもの生命・人権を守り健やかな成長をめざして取組を行っています。児童虐待、児童買春、児童ポルノ、薬物乱用等の法整備を図っています。また学校でも生徒の成長に重大な影響を与えるとしていじめ、暴力行為、不登校、体罰等の対策が行われています。

高齢者

人はいくつになっても生きがいをもち、安心して自立した生活を送りたいと願っています。しかし、身体・精神的衰えの理由による高齢者に対する就職差別や、要介護者への身体・心理・経済的虐待等が増えています。高齢者の心情に寄り添ったり、地域全体が高齢者を支えたり、生活の質を向上させていくことが対策として求められています。

障害者

日本は1990年代にノーマライゼーション^{*4}の考え方を導入し、ともに幸福な人生を目指して暮らすことを社会の基本としています。障害がある人を特別視するのではなく、一般社会の中で生活しやすいように環境を整え、障害の有無にかかわらず、個人がもつ意欲と能力を発揮できる社会の実現が大切です。

同和問題

日本の歴史過程でつくられた身分差別により、同和地区と呼ばれる特定の地域出身であることやそこに住んでいることを理由に、就職や結婚の際に差別を受けることがあります。根拠のない風評や固定観念にとらわれずに、正しい認識をもつことが大切です。

外国人

言語や宗教、生活習慣の違いから、様々な問題が発生しているほか、特定の民族や国籍の人々を排斥する差別的言動(ヘイトスピーチ)が行われるなどの問題もあります。互いに尊重し合い、ともに暮らしていく多文化共生の意識をもつことが大切です。

HIV感染者・ハンセン病患者及び元患者

医学的に不正確な知識や過度の危機意識は、HIV感染者やハンセン病患者等への偏見や差別意識を生んできました。病気について誰もが正しく理解し、患者が安心して医療を受けられることができ、自立した生活を送ることができる社会の実現が求められています。

犯罪被害者とその家族

犯罪被害者やその家族は、事件の直接的被害のほかに精神的・経済的負担にさらされます。また風評や報道によりプライバシーが侵害される等の二次的被害もあります。犯罪被害者やその家族の置かれた立場とその心情をきちんと理解し、社会全体で支えていくことが求められています。

インターネットによる人権侵害

インターネットは、気軽に情報発信ができる特性から、トラブルに発展するケースが多発しています。また、一度掲載された情報は掲載した人の意思にかかわらず、広がる可能性が大きいです。一人一人が他者の人権への配慮に心がけ、適切な情報管理をしていくことが求められています。

災害に伴う人権問題

東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の事故では、被災者や福島への偏見や差別といった風評被害や避難した子どもたちへのいじめなどの問題が発生しました。災害は、発生後の救済・復旧・復興のすべての過程において「人権」の視点で捉えることが必要です。

アイヌの人々

古くから北海道を中心に住んでいたアイヌの人々は、独自の文化や伝統を築いてきました。しかし、今なお結婚や就職における差別が残っています。少数民族であるアイヌの人々の文化・伝統を学び理解することで、アイヌの人々の尊厳を尊重することが大切です。

刑を終えて出所した人

刑を終えて出所した人には、更生の意欲があっても、周囲の偏見や差別意識によって、就職を断られたり、入居を拒否されたりするなど、社会復帰が困難となる問題があります。刑を終えて出所した人が社会の一員として円滑な生活を送るためには、周囲の理解と協力が必要です。

性的指向・性同一性障害者(LGBT)にかかわる人権問題

性のあり方は、一人一人異なります。恋愛対象が同性や両性に向かう人、体の性と心の性に不一致を感じる人などさまざまです。しかし、周囲からの偏見や差別により、日常生活で不自由を感じている人がいます。社会全体が、性に対する多様なあり方の理解を深めていくことが大切です。

ホームレス等生活困窮者にかかわる人権問題

様々な事情で経済的に困窮な状況となり、やむにやまれず公園や道路などで生活している人々がいます。こうした人々が、嫌がらせや暴力を受ける問題や社会とのつながりが薄れ、自ら助けを求められないなどの問題があります。相談窓口の周知や個々の状態に応じた支援が必要です。

北朝鮮当局による拉致問題等

1970～80年代にかけて、多くの日本人が不自然な形で行方不明となり、その多くは北朝鮮(朝鮮民主主義人民共和国)当局による拉致の疑いが濃厚であることが明らかになりました。日本政府は、これまでに2002年に帰国した5名を含め17名を拉致被害者として認定しています。拉致問題早期解決には、国民と国際社会の理解と支持が大切です。

▶世界人権宣言とは

1948年12月10日国連総会で採択されました。人権尊重は平和の基礎であるという共通認識がもたれ、国連加盟国が達成すべき共通の人権基準が宣言されました。

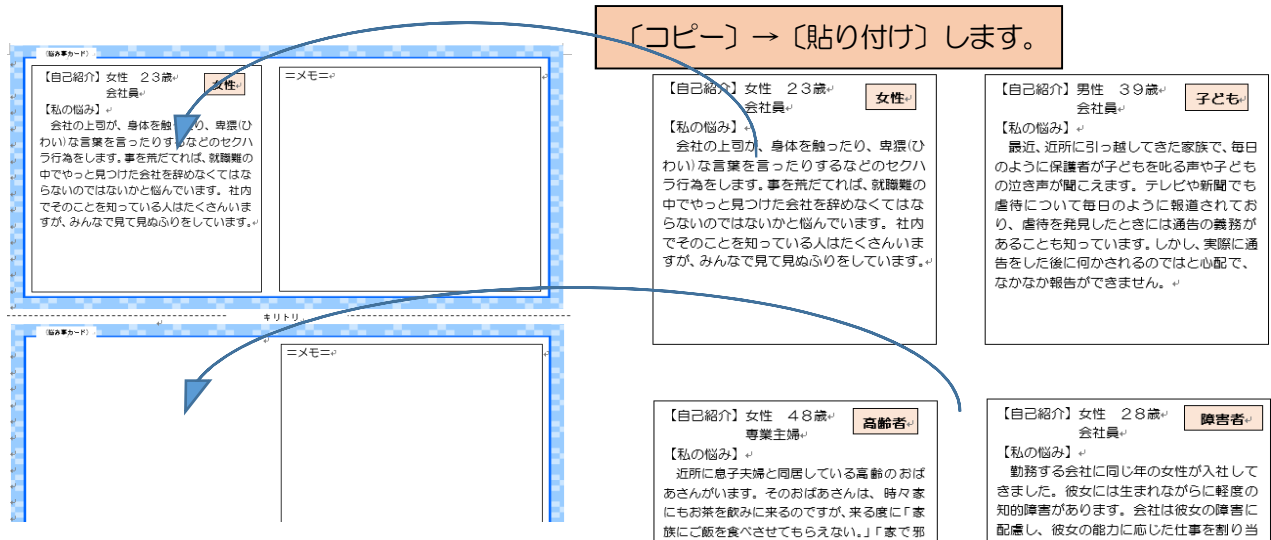


*1 DV…Domestic Violence(ドメスティック・バイオレンス)の略称で、配偶者からの暴力のことです。また、デートDVとは交際相手など親密な関係にある人(配偶者を除く)からの暴力のことです。 *2 セクハラ…セクシュアル・ハラスメントの略称で、性的な言葉や行為で行う性的嫌がらせのことです。 *3 「子どもの権利に関する条約」の通称です。 *4 ノーマライゼーション…障害者の生活をできるだけ一般の市民と同様な生活に近づけることで、障害の有無にかかわらずともに生きる社会が本来の社会であるという考え方のことです。

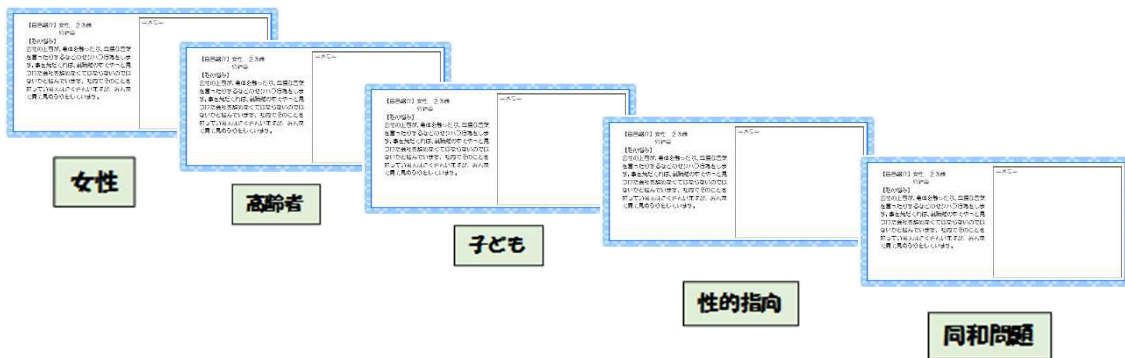
資料②

悩み事カード（作成の手順・留意点）

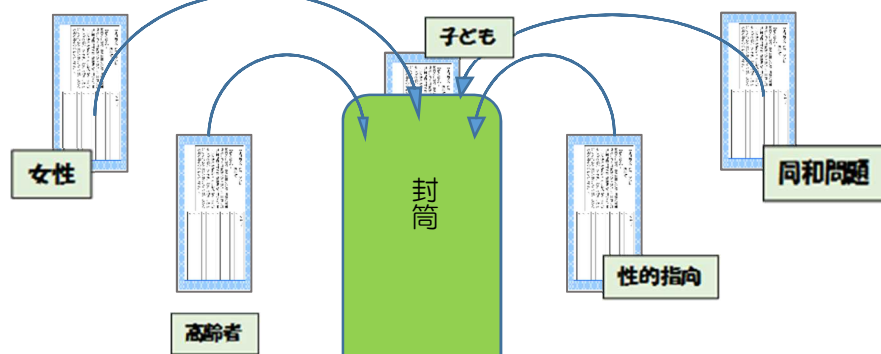
1. 研修・講座の内容や参加者に配慮して悩み事を選びます。
(悩み事の数、一番人数の多いグループの人数に合わせるようにします。)
2. 選んだ悩み事を、悩み事カードの左側にコピーして貼り付けます。



3. 悩み事カードを1枚ずつに切り分けます。



4. 3のセットをグループ数作成し、封筒に入れて準備します。
(各グループが同じ種類、同じ枚数になるようにします。)



(悩み事カード)

取り上げたい悩み事を、
悩み事P 1～P 3から選
び、貼り付けます。

=メモ=

キリトリ

(悩み事カード)

=メモ=

キリトリ

(悩み事カード)

=メモ=

【自己紹介】女性 23歳
会社員

女性

【私の悩み】

会社の上司が、身体を触ったり、卑猥(ひわい)な言葉を言ったりするなどのセクハラ行為をします。事を荒だてれば、就職難の中でやっと見つけた会社を辞めなくてはならないのではないかと悩んでいます。社内でそのことを知っている人はたくさんいますが、みんなで見て見ぬふりをしています。

【自己紹介】男性 39歳
会社員

子ども

【私の悩み】

最近、近所に引っ越してきた家族で、毎日のように保護者が子どもを叱る声や子どもの泣き声が聞こえます。テレビや新聞でも虐待について毎日のように報道されており、虐待を発見したときには通告の義務があることも知っています。しかし、実際に通告をした後に何かされるのではと心配で、なかなか通告ができません。

【自己紹介】女性 48歳
専業主婦

高齢者

【私の悩み】

近所に息子夫婦と同居している高齢のおばあさんがいます。そのおばあさんは、時々家にもお茶を飲みに来るのですが、来る度に「家族にご飯を食べさせてもらえない。」「家で邪魔者扱いされて家にいたくない。」と訴えてきます。最近、おばあさんは物忘れが目立つようになっており、近所で迷子になることもあります。普段、家族の様子を見ていると、とてもおばあさんを大切にしているように見えます。

【自己紹介】女性 28歳
会社員

障害者

【私の悩み】

勤務する会社に同じ年の女性が入社してきました。彼女には生まれながらに軽度の知的障害があります。会社は彼女の障害に配慮し、彼女の能力に応じた仕事を割り当てているため普段の仕事には全く問題なく、彼女も熱心に仕事に取り組んでいます。私としては、同僚としてもっと打ち解けて仕事ができればと思うのですが、彼女にどう接していいかわかりません。

【自己紹介】男性 19歳
大学生

同和問題

【私の悩み】

同和問題について、インターネットで自分の出身地のことを調べました。すると、掲示板に、被差別部落の地域と名字に関する書き込みがあり、自分の家のある住所と名字がそこに載っていました。書き込みの中には、ひどい誹謗中傷もあり、私自身は、いわれない差別に不合理性を感じました。自分のルーツについて知りたい気持ちがあり、家族にそのことを話すべきか悩んでいます。

【自己紹介】男性 17歳
高校生

外国人

【私の悩み】

私の友だちは日系人です。その友だちと一緒に学校から帰る途中、近くの公園を通りかかると、その友だちが急に立ち止まりました。友だちの視線の先に目をやると、公園の壁に「〇〇人は日本に来るな、帰れ!」と大きく書かれていました。私はその時、立ち尽くす友だちに何か声をかけようとしたのですが、なんといいのかわかりませんでした。

【自己紹介】男性 40歳
会社員

HIV感染者

【私の悩み】

部下から、HIVの検査を受けた結果、陽性であったことを告げられました。もう一度別の場所で検査を受けさせましたが、結果は変わりませんでした。その部下とは、今後一緒に仕事をしていきますが、そのことが周りの社員に知られたらと思うと心配です。

【自己紹介】女性 70歳
無職

ハンセン病患者
及び元患者

【私の悩み】

私の兄は元ハンセン病患者です。昔は兄が療養所に入所していることで偏見や差別がありました。現在私は結婚していますが、兄とは40年以上連絡をとっていません。兄に会いたいのですが、未だに偏見が残っているのが怖くて、家族や親戚を説得する勇気もありません。

【自己紹介】男性 45歳
会社員

犯罪被害者と
その家族

【私の悩み】

私の友人がある事件に巻き込まれてしまいました。そっとしておいてほしいと願う被害者側の気持ちとは反対に、執ような取材はモラルも何もないものでした。また、根も葉もないうわさが近所に流れています。これによって精神的苦痛を余儀なくされた友人とその家族を見ていることは、私にとっても大変苦痛です。私にできることはないでしょうか。

【自己紹介】女性 28歳
会社員

インターネット
による人権侵害

【私の悩み】

私の友だちA子さんは、付き合っていた彼に、最近ネット掲示板に写真を無断で投稿され、悩んでいます。掲示板の書き込みにもA子さんに関する誹謗中傷(ひぼうちゅうしょう)の内容が書かれていて、精神的にも辛い状況です。私はA子さんのために何ができるのでしょうか。

【自己紹介】男性 19歳
大学生

災害に伴う
人権問題

【私の悩み】

私には東日本大震災で原発事故の被害にあった地域出身の友人Aがいます。ある日、その友人が実家から送られてきた果物を大学に持ってきました。昼食時にその果物を食べようとした時、別の友人Bが「放射線とか大丈夫？」と冗談交じりで言いました。友人Aの出身地付近で採れた農作物は検査され、安全性は保障されています。私は率先してその果物を食べ、「おいしい」と言いました。友人Aは笑ってくれましたが、顔がどこかくもっていました。

【自己紹介】女性 43歳
専業主婦

アイヌの人々

【私の悩み】

私はアイヌの家系に生まれました。北海道内にいる時は、アイヌであることを理由に差別的な発言を受けることもありました。道外に出て結婚し、子どもにも恵まれました。その子どもが、最近、学校で外国人のようだからかきを受けていると言ってきました。私はアイヌに誇りがあり、子どもにも自分のルーツについて知ってもらいたいと思っています。ただ、子どもがどう受け止めるか不安です。

【自己紹介】男性 56歳
会社社長

刑を終えて
出所した人

【私の悩み】

先日、3年間の刑期を終えて出所してきた男性が、入社希望の書類を持ってきました。人柄も良さそうで、彼自身悔い改め、新たな人生を踏み出そうと思っていることが、話してみてもよく分かりました。私は彼を採用し一緒に働きたいと考えているのですが、彼に対する偏見や差別を生まないために、社長としてどのようなことができるでしょうか。

性的指向・性同一性障害(LGBT)にかかわる人権問題

【自己紹介】女性 28歳
高校教諭

【私の悩み】

放課後、女子生徒の一人に相談があると言われました。内容は「自分の身体は女性だが、心は男性で、トランスジェンダーである」とのカミングアウトでした。そして「このことは、先生だから話した。絶対に他の人には言ってほしくない。」とのことでした。告白してくれてうれしい気持ちもありましたが、自分だけの胸の内にしまっておくのは辛いです。

ホームレス等生活困窮者にかかわる人権問題

【自己紹介】男性 47歳
自営業

【私の悩み】

最近、私の家の近くの公園にホームレスの男性が暮らし始めました。その男性に対して団体の若者たちが、からかいや嫌がらせをしているのを見かけました。若者たちを注意してやめさせたいという気持ちはあるのですが、何か言って自分や自分の家族が被害を受けるのも怖いです。ただ、今後エスカレートしないか心配です。

【自己紹介】女性 46歳
会社経営

北朝鮮当局による
拉致問題等

【私の悩み】

18歳になる娘が、北朝鮮による拉致問題について学校の先生から聞いたと言ってきました。娘は「かわいそうだと思うけど、遠くの国で起こっていることで自分とは関係ない。」と無関心で冷めている様子です。拉致された人の家族の中には、大切な娘を奪われた人もおり、同じ娘をもつ母親として、何か娘に伝えなければという気持ちがあります。ただ、どのような言葉を娘にかければよいのかわかりません。

参考

平成 23 年度発行の人権に関する社会教育指導資料「実践！参加体験型人権学習」では、次の人権に関する悩み事カードを掲載しています。

外国人
高齢者
セクハラ
パワハラ
障害者
同和問題

子ども
インターネット
HIV 感染者
犯罪被害者とその家族
刑を終えて出所した人
性的指向

ハンセン病元患者
六曜
性同一性障害
ホームレス

〇お互いの人権尊重をめざして

相手の思いを大切に

佐野市立界小学校5年 富田 結衣

私は、これまで、「自分がされてうれしいことをできるだけたくさん人にしてあげたい。」「自分がされていやなことは、絶対にしない。」という思いをもって生活してきました。困っている友達がいいたら、できるだけ声をかけて、手助けをしてきました。

よいことをすると、相手も喜ぶし、自分自身も気持ちがよくなるからです。また、友達や先生にほめられると、とってもうれしい気持ちになります。

5年生になり、クラスがえて新しい友達が増えました。「今年もみんなの手助けを、たくさんしよう！」と思っていた私は、ある日の休み時間、忙しそうに係の仕事をしている友達に、「手伝ってあげる。いっしょにやろう。」と声をかけました。すると、「ありがとう。でも、自分でやるから大丈夫。」と断られてしまいました。私ならされてうれしいことなのに、人の親切を断るなんて……と、私は内心むっとしました。

ある日、お母さんとカフェに行く車内で、その時の話をしました。お母さんは、うなずきながら聞いてくれました。カフェに着き、買った物を持って席に着くと、お母さんが私の飲み物にストローをさしてくれました。その上、私のワッフルを一口大に切り始めました。いつも自分でやっていることです。やめてほしいと思い、「自分でやるから大丈夫だよ。」と言いました。すると、お母さんは、「あら？よかれと思って手助けしたのに。断るなんてひどくない？人の親切を。さっき話していた友達と同じじゃない。」

私は、はっと気付きました。人は、一人一人個性があるように、してほしいことや、されてうれしいこともみんなちがうんだ。もしかすると、私は、自分自身の気分がよくなるために、手助けを「してあげる」という気持ちが強くなっていたのかもしれない。

お母さんは、私の顔を見てにっこりと笑い、まだナイフを入れていない自分のワッフルと交換してくれました。

その時から、私は、相手がどうしてほしいのか、相手の気持ちをよく考えて行動するようになっています。

これから、車いすの人、お年寄りなど、いろいろな人と出会う機会が増えると思います。私自身がそうだったように、「自分でできることは自分でやりたい」と思って生きている人がたくさんいるのです。もし、困っているのかなと思ったら、放っておくのではなく、「私にお手伝いできることはありますか。」と声をかけ、相手の思いを大切にしたいと思います。

これからも、相手の思いをおしはかり、相手の思いを大切にしながら、自分自身も周りの人も、みんなが気持ちよく生活できる社会をつくっていきたいです。

様々な人権問題

現在の日本には、どのような人権問題があるでしょうか。

=ふりかえり=

今日の活動全体をとおして、感じたことや考えたことを書きましょう。

